

子どもたちを放射能から守ろう!

= 大集会 =

事故から25年：まだ終わっていない

☆映画「チェルノブイリハート」あらすじー

チェルノブイリ事故から16年後の2002年、ベラルーシ共和国——。

「ホット・ゾーン」の村に住み続ける住民、放射線治療の現場、小児病棟、乳児院・・・

今なお続く被曝被害の事実に迫った渾身のドキュメンタリー。

現在も原発から半径30キロ以内の住居が禁止され、北東350キロ以内に「ホット・ゾーン」と呼ばれる高濃度汚染地域が約100ヶ所も点在する。農業や畜産業は禁止されている。

事故から20年、原発事故後はじめて故郷に帰った青年(事故当時10歳)は、廃墟となったアパートへ向かう。爆心から3キロの強制退去地域は、1986年で時間が止まったまま。何もかも台無しにした原発事故。色あせた1986年のカレンダーを見つめて「近親者の10人がガンで死んだ。放射能とは無関係と言われることを、俺が信じると思う?俺もそうやって死ぬんだ。とんだ犬死だろ」とつぶやいた彼も、その1年後に亡くなった。享年27歳。

2012年

5月27日 (日) 高崎市群馬音楽センター

11:00 子どもたちを放射能から守ろう!チャリティーバザー開始

12:30 開場

13:30 福島県からの避難者、川上英子さんのウクレレ演奏

1986年4月26日

絶対!!原子力戦隊スインジャーコント

チェルノブイリ原発事故発生。

映画「チェルノブイリハート」上映

そこで生まれた子供たちにたくさんの涙を及ぼした

16:00 閉会予定

放射能の影響で心臓に重度の障害をもった子供たち、

それを「チェルノブイリ・ハート」と呼ぶ。

絶対！！原子力戦隊スインジャー参上！！



絶対！！原子力戦隊スインジャーは「東電レッド」「マスコミホワイト」「経産省ブルー」の3人タッグを構成。原発の危険性を宣伝する「怪人反原発男」と死闘を繰り広げる。原子カムラを痛烈に皮肉るコント集団！乞うご期待・・・！！



＝ 開催にあたって ＝

◇子どもたちを放射能から守ろう！

福島第一原発の事故はチェルノブイリ原発事故と同様「レベル7」に認定されました。チェルノブイリ事故の被災地で子どもの「甲状腺ガン」が増加しはじめたのは事故から5年後のことでした。子どもは放射線による被曝の影響が、大人よりずっと強く、いったん放射性物質が体内に取り込まれれば、成長期の細胞を傷つけ、少量であろうが何らかの影響を与えることになります。

◇内部被ばくをしないためにどうすれば良いのか

放射性物質を鼻や口、皮膚を通して取り込まれることも危険ですが、最も危険なのが食品や飲み物を通じて取り込まれることです。国の基準値が引き下げられますが、理想を言えば妊娠中や妊娠の可能性のある女性、15歳未満の子どもは少しでも汚染されたものは食べないほうが良いと考えます。大人がシッカリとした知識を持ち子どもたちを守りましょう。

◇危険な原発に対して、再稼働反対！即時停止・廃炉！を訴えよう！

チェルノブイリ、フクシマの教訓は人類と放射能は共存できないということです。子どもたちの、平和で明るい未来を創るために、今何をなすべきか共に考えていきましょう。

—北関東9条連事務局—